

【別紙様式3】

再評価実施事業調書

|              |              |        |                   |                      |                  |        |                     |            |            |
|--------------|--------------|--------|-------------------|----------------------|------------------|--------|---------------------|------------|------------|
| 番号           | 2            | 事業名    | 社会資本整備総合交付金(道路事業) |                      | 路線又は箇所名等         |        | 一般国道464号<br>北千葉道路Ⅱ期 |            |            |
| 事業所管課        |              | 道路整備課  |                   | 事業主体                 |                  | 千葉県    |                     |            |            |
| 事業化年度        | 平成<br>19年度   | 用地着手年度 | 平成<br>21年度        | 工事着手年度<br>工事終了(認可)年度 | 平成19年度<br>平成41年度 | 再評価の理由 | ②                   |            |            |
| 費用便益比<br>B/C | 1.7<br>(1.9) | 総費用    | 336億円<br>(299億円)  | 総便益                  | 556億円<br>(556億円) | 基準年    | 平成<br>27年度          | 供用開始<br>年度 | 平成<br>42年度 |

※上段:全体事業 下段( ):残事業

【事業概要】

(目的)

一般国道464号は、千葉県松戸市から千葉県成田市までの延長約43kmの路線で、千葉東葛飾地域と成田地域を結ぶ重要な道路である。北千葉道路は、首都圏北部と成田国際空港のアクセス時間を大幅に短縮する新たな道路アクセスルートとして都市再生プロジェクトに位置付けられている4車線道路であり、そのうちⅡ期区間として、成田市押畑から成田市大山まで約3.7kmの事業を実施しているところである。

【事業の進捗状況】(平成27年度末見込み)

|         | 全体    | 投資事業費 | 残事業費  | 進捗率 |
|---------|-------|-------|-------|-----|
| 事業費(億円) | 421.3 | 35.9  | 385.5 | 9%  |
| うち用地補償費 | 20.8  | 19.2  | 1.6   | 92% |
| うち工事費   | 400.6 | 16.7  | 383.9 | 4%  |

※四捨五入の関係で合計が一致しない箇所がある。

【社会経済情勢等】

北千葉道路は、都心と成田国際空港間のアクセス強化のみならず、成田・千葉ニュータウン業務核都市の骨格交通軸として地域の活性化を図る上からも必要不可欠な道路であることから、関係7市の首長等からなる北千葉道路建設促進期成同盟や、商工会議所などの経済団体からなる北千葉道路(印西市～成田市間)建設促進協議会より整備推進の要望を受けている。

成田市街地では、一般国道408号等で慢性的な渋滞が発生しており、4交差点が主要渋滞箇所に特定され、特に土屋交差点においては、平日、休日ともに顕著な渋滞が発生している。

当該区間に並行する一般国道408号では、死傷事故率が95.1件/億台キロとなっており、千葉県全体の死傷事故率の約1.5倍であり、事故の危険性が高い状態にある。

現道の一般国道464号は、幅員が狭い区間や急カーブ区間が存在し、救急医療活動や物流活動に支障をきたしているほか、当該地域の緊急輸送道路1次路線は、北千葉道路の既供用区間を除くと、2車線かつ混雑度が高い区間が多く、緊急輸送道路ネットワークが脆弱である。

当該区間に隣接し、国と県で整備を進めているⅠ期区間(印西市若萩～成田市押畑までの延長約9.8km)については、平成30年度の暫定2車線での供用を目指し、整備が進められている。

【対応方針(案)】

北千葉道路Ⅱ期は、事業全体の費用便益比(B/C)が1.7(残事業1.9)であり、事業の投資効果が見込まれる。

「成田国際空港へのアクセス強化」に資する道路整備として位置付けられ、整備効果として、通過交通と内々交通の適切な機能分担による成田市街地の交通の円滑化や、交通混雑緩和による安全性の向上、移動時間の短縮や定時性の確保による物流の効率化、第3次救急医療施設や防災拠点間の所要時間短縮による救急医療や防災機能の向上などに寄与することから、事業の必要性・重要性が高いため、早期供用に向け事業を継続したい。

【別紙様式4】

